

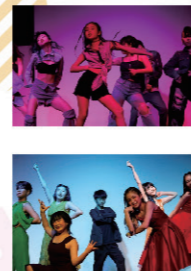
IGL DANCE STUDIO キッズダンス



IGLダンススタジオ「キッズダンス」は、サムエル広島こどもの園ベル分園に隣接するスタジオで毎週火曜日にレッスンをを行っています。基礎から応用まで丁寧に指導し、ダンス発表会に出場するなど元気に活動しています。



一緒にダンスを始めませんか
初心者も丁寧にサポートします



レッスン生
募集
見学歓迎

- 対象 ダンスが初めての方から高校生まで
- 日時 毎週火曜日(クラスにより時間が異なります)
- お月謝 5,500円/月 ※詳細はお問い合わせください。
- お問い合わせ 090-3749-2180 (玉川)



先生一! 知っておくと役に立つ情報を発信!

老年症候群

介護老人保健施設
施設長 小野 栄治先生



わが国では、高齢者を年齢により65から74歳までを前期高齢者、75歳以上を後期高齢者の2つに区分された社会制度が定着している。しかし、人々の平均寿命が少しづつ長くなり、元気に社会生活を続けることができる高齢者も多くなり、定年の設定も引き上げる動きも進んできている中、加齢による健康への問題は個人差も大きい、世代の進みに従って複雑さも増してきている。

日本老年学会や日本老年医学会では、65~74歳を準高齢者、75~89歳を高齢者、90歳以上を超高齢者と呼ぶことが提案されている。特に、ADLの低下が素因となって発生する疾病も多く、循環器疾患、脳血管疾患、糖尿病、認知症に加え、変形性関節症や大腿骨や脊椎の骨折歴など運動器の障害も含め複合した慢性疾患を抱えている方も多い。それらを総合して老年症候群と呼ばれるようになってきた。

個々の疾病に対する、薬物療法は当然必要になるが、ADLの維持改善対策として、身体の運動器の機能向上や改善を行うリハビリテーションと様々な精神、身体的ケアは極めて重要である。これらを充実させることで、好結果が得られる例は、関係スタッフの方々はしばしば経験されていると思われる。また、可能な限りは自宅又はそれに近い環境で過ごすことを、理想と考えている高齢者は多いと思われる。そうしたことの実現に努めるところに我々高齢者施設で働く者の、大きな役割があると考えている。

例えば、摂食嚥下の訓練やサポートがある。高齢者の生命予後を左右する大きな因子の一つは、栄養状態の維持である。特に80歳を超えてくる世代では、様々な理由により、食欲低下、摂食障害が発生している方々においては、徐々に進行する栄養障害による体力低下にともない体を動かすことが少なくなり、そのため、益々食事摂取の低下が進む悪循環のため衰弱への方向が止められなくなる。そのような事態を改善することは容易ではないが、関係スタッフの介入により、改善が得られる可能性のある高齢者も少なくはない。

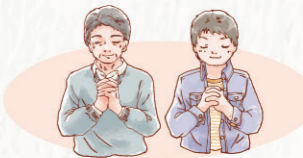
一方、逆に90代になっても元気に過ごされている方々は、様々な食品をよく食べるにより健全な栄養状態を維持されている方が殆どである。さらに、適度な運動や趣味を続けることで、四肢の筋力の維持、認知機能の低下防止につながることは、どなたもよく知っておられることである。

高齢者施設で勤務されているスタッフの皆さんは、特にそのようなことを十分に理解され、優しさや誇りを持って高齢者の方々の力になって下さることが期待されている。



教会から「愛の手紙」

恩師を天に送って 広島福音教会牧師 加藤 望先生



今年8月半ば、広島福音教会が所属する日本ホーリネス教団の重鎮牧師の一人、K牧師が天に召され、91年の生涯を閉じられました。1960年代、アメリカ留学から帰国されると、新しい教会を生み出す働きを進めつつ、牧師養成のための聖書学院で教鞭を取り、1976年からは学院長として尽力されました。日本のキリスト教界においても名説教家として知られ、多くの著書を著わし、キリスト教の確かさや聖書の奥深さを解き明かし、多くの人々に感動を与え、その人生に多大な影響を与えてくださった先生でした。

広島福音教会が日本ホーリネス教団に所属するようになったのが1990年ですが、それ以来、K牧師は永見理事長とも懇意にされ、IGLの老人施設建設に際し、上棟式には必ず祝福を祈りに来てくださいました。

私も子どもの頃からお世話になった先生です。父がK牧師と聖書学院で共に学び、良き友人・同労者でしたので、家族ぐるみのお付き合いでした。私がアメリカ留学するときには、背中を押して励ましてくださり、また肝臓移植手術が必要になったときには、自ら先頭に立って支える会を起し、全国各地の集会で募金活動を推し進めてくださいました。「神さまの舞台裏を見せてもらったよ、

神さまのなさることはすげえな」。募金目標額を達成したとき、ホッとされたK先生が漏らされた一言でした。感謝してもしまきれないくらいお世話になった先生です。

「地上はどんどん寂しくなって、天国がにぎやかになっているね」。葬儀に集まった同年代の牧師仲間の言葉です。65歳になって高齢者と呼ばれるようになると、親や先輩方を天に送ることが多くなり、このような感想を持つようになるものです。けれども、私たちにはまだ走るべき地上の行程があります。天国に思いを馳せると同時に、私たちの日々の歩み、今、私たちが繋がりのある方々との有意義な交流を大切にしていきたいですね。

「あとは任せたら」。K牧師が病床で遺された最後の言葉です。信仰のバトンタッチを受けた私たちが、それぞれ置かれた場所で精一杯、神さまから与えられた人生を生き抜きたいと願います。

「主の聖徒の死はその御前において尊い」(詩篇116:15)。



ドイツからボランティア生がやってきました!

東日本大震災の年、独日平和フォーラムから、日本に於ける国際青年奉仕活動(JFD)の依頼を受け、2011年度よりサムエル信愛・未来・サムエル広島のこどもの園でボランティア活動開始。今日を迎えています。子どもたちと一緒に、遊んだり歌ったり、縄跳びコマ回しなど保育者の仕事のアシストの一年間を過ごします。英語でドイツ語で子どもたちは、異文化に触れる豊かな時間を満喫しています。

Wie sagt man: Bitte kommen Sie noch einmal?



ローザリーさん



エミリーさん



サラさん